

【ポスター発表】

児童養護施設における子どもと職員のコミュニケーションのあり方の考察

日本福祉大学（社会福祉実習教育研究センター） 吉村 美由紀（会員番号7366）

キーワード： 児童養護施設 コミュニケーション 子どもと職員

1. 研究目的

児童福祉法等の一部を改正する法律により「被措置児童等虐待」に関する規定が2008年に設けられた。これを受けて、2009年に厚生労働省「被措置児童等虐待対応ガイドライン」が策定された。そこでは、施設における予防的取り組みの重要性が指摘されており、被措置児童等に対するケアについて「組織としての対応」、「コミュニケーションがとれる体制」を作ること等、ケアの質の向上や、施設等における適切な体制整備を進めることが被措置児童等虐待の予防につながると述べられている。

しかし、児童養護施設では虐待等子どもの抱える問題が多様化、複雑化している背景から子どもへの関わりの難しさ、また施設の小規模化に伴い、職員一人ひとりにかかる負担感が高まっているなかで、ケアの質の向上のための体制づくりや子どもとの十分なコミュニケーションの時間を確保することは容易なことではない。

本研究では、子どもたちにとっての家庭に代わる生活の場であるべき児童養護施設等において子どもと職員のコミュニケーションの実態についての調査を行い、更に子どもと職員のコミュニケーションのあり方や、職員に求められること、今後必要と思われる制度や仕組み等の考察を試みる。なお、本研究における「コミュニケーション」とは、“日常の会話等”とし、会話以外のものも含め、やや広くとらえて定義する。

2. 研究の視点および方法

全国の児童養護施設等職員と児童養護施設入所中の高校生にアンケート調査を行った。本調査では、子どもと職員の日常のコミュニケーション時間とそれに対する満足感、会話の内容、コミュニケーションを行うための工夫などについて調査した。調査対象の施設職員に関しては、全国の児童養護施設（563ヶ所）等に1通ずつ郵送した。回収数は211票ですべて有効票、回収率は32.3%である。また、高校生に関しては、全国の児童養護施設563ヶ所に各施設3通ずつ質問紙を郵送し、職員により在籍中の高校生を選出してもらった。回収数440票ですべて有効票であった。回収率は26.1%である。できるだけ回答者自身の歪みの少ない回答を得るために、氏名や施設名を記入せず封筒に入れて個々に投函していただく方法とした。調査期間は2010年6月～7月である。自由記述の分析では、記述された内容の文脈についてカテゴリー化を行った。

3. 倫理的配慮

アンケート調査の実施においては、回答票には各施設の職員、高校生ともに個人が特定できないよう施設名、及び記入者名の記載を求めず、個別に投函してもらった。調査結果の集計（自由記述を含む）においてもプライバシー保護のため一部変更等配慮を行った。

4. 研究結果

<コミュニケーションの満足感と時間>

職員に対して「子どもと十分にコミュニケーションがとれていると思いますか」と尋ねたところ、「はい」89(42.2%)、「いいえ」117(55.5%)、不明5(2.4%)であった。子どもに対して、「職員と十分にコミュニケーションがとれていると思いますか」と尋ねたところ、「はい」345(79.3%)、「いいえ」89(20.5%)、「どちらともいえない」1(0.2%)であった。

職員側では子どもとのコミュニケーションが不十分であると感じている方が多く、約6割である。一方で子ども側では職員とのコミュニケーションが十分にとれていると感じている方が多く、約8割である。このことから子どもと職員にはコミュニケーションの満足感に差違があることがわかる。

また、「はい」(コミュニケーションが十分とれていると思っている)と回答した人に、1日のコミュニケーション時間を尋ねたところ、職員では、10分以下が11(9.5%)、10～30分が37(31.9%)、30～60分が29(25.0%)、60以上が21(18.1%)、不明が18(15.5%)であった。子どもでは、10分以下が54(16.2%)、10～30分が133(39.8%)、30～60分が90(26.9%)、60以上が57(17.1%)である。この結果からみると、子ども側の方が、職員側よりも短い時間のコミュニケーションであっても「十分にとれている」と回答していることがわかる。

さらに、「十分にコミュニケーションがとれていると思いますか」と尋ねて「いいえ」と答えた方に、コミュニケーションがとれていない理由(複数回答可)を尋ねたところ、職員では、1位「他の業務が多い」からが、77(31.8%)、2位「自分の力量が不足している」からが59(24.4%)、3位「子どもに対応する職員が少ない」からが51(21.1%)であった。子どもでは、1位「自分が職員を避けたい」からが、31(25.0%)、2位「施設でコミュニケーションをたくさんとってくれるという雰囲気がない」からが18(14.5%)、3位「職員が仕事(食事準備、洗濯、掃除、記録等)で忙しい」からが16(12.9%)であった。

尚、本研究は「NPO 法人子どもサポートネットあいち」(代表：長谷川真人)(調査担当者：吉村美由紀・伊藤貴啓)で実施した調査(2010年)の一部として行われたものである。

[文献] 全国社会福祉協議会(2009)『子どもの育みの本質と実践』調査研究報告書